

令和4年3月1日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 3月号

園だよりは今月号で2021年度の最終号となります。

年長さんは今月が幼稚園の卒園時期となりました。在園期間中はコロナ禍の真ただ中。多くの行事が中止になったり変更となったりで本来ならばもっとたくさんの体験ができたはずだったのに残念でしかたありません。それでも園児のみなさんは限られた環境にもかかわらず、元気に楽しく園生活を送ってくれたことがとても嬉しく感じました。

園長室に「チャレンジを見てください」と何人ものお友だちが来てくれました。時には私や副園長が食事中でも「チャレンジを見てください」と声がかかって見に行くことが何回もありました。それくらい頑張っているお友だちがたくさんいて、子どもたちの達成した時の嬉しそうな顔を見るとこちらまで嬉しくなりました。お友だちが達成するのを見て自分もきっとできると頑張ったり、「ちょっと自信ないなあ」としり込みをする子を先生方が励ましたり、援助してくれたりすることで多くの子が達成できました。

また、教えてくれるのは先生方だけでなく、すでにできるようになったお友だちが教えてくれる姿を何度も見ることができました。チャレンジの際にはお友だちが「頑張れ、頑張れ」と声を出しながら応援してくれました。できなかったことができるようになるのは結果だけでなく、その過程がとても素敵でしたし、同じ喜びを共有できる姿が各所で見られました。卒園すると入学する学校は様々ですが、敬愛幼稚園でのこうした経験はどこかで何かするときの支えになることなのでしょう。

## 【感ずることのできる人と感ずることのできない人の差はなにが原因？】

冬季オリンピックで各国の選手が活躍しましたが、中でもスノーボード女子ビッグエアでは、日本の岩淵選手は世界の誰もがやったことのないエアに果敢に挑戦し、結果は惜しくもメダルとはなりませんでしたが大きなニュースになりました。

素晴らしかったのは、同じ競技に参加していた各国の選手たちの姿でした。果敢に難しいエアに挑戦した岩淵選手を皆が自然に称えたシーンでした。これは普段の厳しいトレーニングを乗り越えてきた同じ仲間の気持ちが良くわかるからです。競技ですから技を競い、優劣がつくわけですが、自分のことよりも果敢に難しい技に挑戦した仲間を心から称えるという気持ちです。自分中心の世界は誰にでもできることですが、自分が苦しい時でも相手を心から尊敬できる人は心が広く、相手の気持ちも思いやることのできる心を持った素晴らしい人です。

日本の社会でも最近はおおり運転など、人どうしのトラブルが多いですが、少しでも相手を尊敬でき、そして、周囲や相手を思いやることのできる心があればきっともっと良い社会ができるのではないかと思います。「この人は尊敬できない」ではなく、「尊敬しようとする」ことなのです。

人は一人だけでは生きていけないものです。どのような人でも、独りよがりであったり、わがままな気持ちも少なからずありますし、自分だけ良ければ、あるいは、自分の都合で行動してしまう人も残念ですが実際には存在しています。そのようなことがあることを理解し、非難をするのではなく、大きな気持ちを持って接することができればもっと居心地のよい社会が形成できるのではないのでしょうか。同時に、自分だけの世界観で行動してしまう傾向の人が、周囲の人々の気持ちを感じることができたなら、これも居心地のよい社会づくりに貢献できるのではないのでしょうか。

気づける人と気づけない人、感ずることのできる人と感ずることのできない人。その違いはなんのでしょうか。生まれた時からそうであったのではないのでしょうか。心を形成する際に大きな影響を与えるのは環境であったり、成長過程での様々な経験等が考えられます。教育観などはまさにその人が受けた教育がどうであったかが大きく影響しています。そう考えると教育って大事ですね。染めるのではなく、自ら相手の気持ちを感じてよりよい道を考えられることが大切です。相手を称え、尊敬できる日本人の良い面はどのような世界であっても脈々とつなげていってほしいと思います。特に今は、ゆったりと周囲を見渡せる気持ちのゆとりが大切ですね。

(園長 杉山清志)